

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社を取り巻く市場環境は、海外においては、中国を中心としたアジア地域の景気の下振れ、国内においては、為替が円高に進行する中、一部に弱さがみられたものの、総じて緩やかな回復基調となりました。

こうした中、上半期決算は、産業インフラを中心とした需要の増加、並びに成長戦略の推進、更に原価低減の一層の推進により、売上高、営業損益ともに伸長したものの、為替変動が大きく影響し、前年同期に比べ、減収減益となりました。

なお、中間配当につきましては、取り巻く経済環境と当社の業績見通しを踏まえ、前年同期と同額の5円配当とさせていただきます。

先般、ご案内いたしました工場視察会につきまして、多数のご応募をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。今年度も国内4拠点で実施し、株主の皆様とのコミュニケーションを図ってまいります。

当社は、2018年度中期経営計画「Renovation2018」を策定し、「富士電機の更なる変革」を基本方針に掲げ、2018年度の売上高9,000億円、営業利益率6%以上を目指し、成長戦略の推進、収益力の更なる強化を推し進めております。引き続き、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

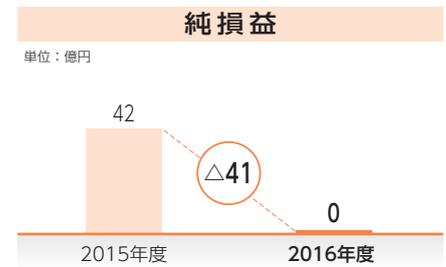
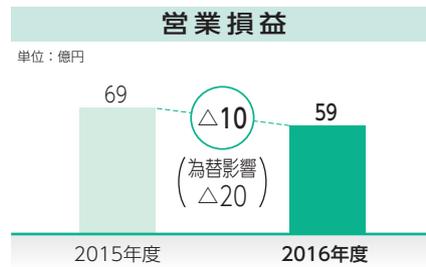
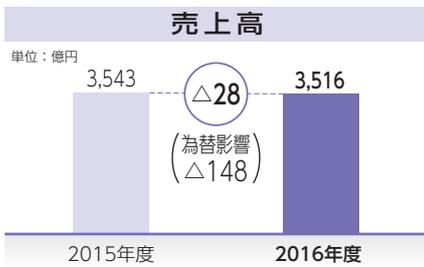
2016年11月

富士電機株式会社
代表取締役社長

北澤通宏



2016年度 上半期決算



セグメント別状況

	売上高		
	2015年度実績	2016年度実績	増減
発電・社会インフラ	707	705	△2
産業インフラ	658	806	148
パワエレ機器	976	915	△62
電子デバイス	634	576	△57
食品流通	547	495	△53
その他	314	283	△31
消去または全社	△293	△263	30
合計	3,543	3,516	△28

	営業損益		
	2015年度実績	2016年度実績	増減
	14	25	11
	△43	△6	37
	28	4	△24
	49	32	△17
	38	20	△17
	11	11	0
	△28	△28	0
合計	69	59	△10

売上高

売上高は、産業インフラを中心とした需要の増加により伸長したものの、為替影響により、前年同期に比べ減収となりました。

セグメント別には、発電・社会インフラは、水力発電設備およびスマートメータは増加しましたが、太陽光発電システムの減少により減収となりました。産業インフラは、変電分野における国内産業向けの大口案件の増加、産業プラント分野における国内の省エネ、更新需要が堅調に推移し、更にデータセンター向け案件の増加により増収となりました。パワエレ機器は、海外における盤事業が堅調であったものの、中国を中心とした海外のインバータ、器具分野の需要減少および為替影響により減収となりました。電子デバイスは、パワー半導体は自動車分野向けで堅調に推移し、産業分野向けも需要回復がみられたものの、ディスク媒体の需要減少および為替影響により減収となりました。食品流通は、店舗流通分野における自動釣銭機およびコンビニエンスストア向け店舗機器の増加はあったものの、国内飲料メーカーの投資抑制に伴う自販機の需要減少により減収となりました。

営業損益

営業損益は、価格ダウンを上回る原価低減を推進したものの、為替変動が大きく影響し、前年同期に比べ減益となりました。

純損益

純損益は、為替差損による営業外損益の悪化を主要因として減益となりました。

2016年度 通期業績予想

上半期および今後の経営環境を踏まえ、下期の為替レートを円高に見直し、通期業績予想を下記のとおりとしました。

	単位：億円			(下期為替レート)		
	売上高	営業損益	純損益	従来	変更後	
2015年度(実績)	8,136	450	306	1ドル	110円	100円
2016年度予想(10/27発表)	8,200	450	270	1ユーロ	120円	110円
				1人民元	17.0円	15.3円

セグメント別通期予想

セグメント別通期予想	売上高			営業損益		
	2015年度実績	2016年度予想(10/27発表)	増減	2015年度実績	2016年度予想(10/27発表)	増減
発電・社会インフラ	1,755	1,835	81	97	111	13
産業インフラ	1,994	2,180	187	112	151	39
パワエレ機器	2,088	2,041	△47	94	89	△5
電子デバイス	1,202	1,110	△92	98	59	△39
食品流通	1,100	1,129	29	80	80	0
その他	626	576	△50	23	22	△1
消去または全社	△629	△672	△43	△55	△61	△7
合計	8,136	8,200	64	450	450	0

中間配当

前年同期と同額の1株当たり5円としました。

安定的かつ継続的に実施することを基本とし、連結業績、今後の成長に向けた研究開発や設備投資計画および経済環境等を総合的に勘案し、前年同期と同額の1株当たり5円とさせていただきます。

なお、期末配当は、下半期の動向を見極め決定します。

TOPICS 優良な子育てサポート企業「プラチナくるみん」(厚生労働省)に認定



当社は、経営方針の一つに「多様な人材の意欲を尊重し、チームで総合力を発揮する」を掲げ、多様な人材が働きやすく、能力を最大限に発揮できる職場環境づくりを目指し、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいます。

2013年より、優良な子育てサポート企業として「くるみん」認定を受けており、今回、仕事と子育ての両立を図る取り組みと実績が評価され、より高い水準の「プラチナくるみん」認定を取得することができました。

【主な評価ポイントと当社実績】

評価ポイント	評価基準	当社実績
育児目的に休暇制度を利用した男性従業員の割合	30%以上	52%
育児休業等を取得した男性従業員数	1人以上	5人
子の1歳誕生日まで継続して在籍している女性従業員の割合	90%以上	100%

※2013年度～2015年度実績

子育て支援、女性の活躍支援、障がい者や高齢者雇用拡大等、ダイバーシティ推進活動の取り組みについては、当社ホームページの社会・環境報告(CSR)で紹介しております。

「社会・環境報告(CSR)」
検索はこちらから

富士電機 CSR

検索

<http://www.fujielectric.co.jp/about/csr/>



皆様のご応募ありがとうございました

- ▶ 富士電機レポート2016
- ▶ 2017年版 当社オリジナルカレンダー

多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げます。
カレンダーをご請求いただいた株主様には、11月より発送しております。2017年のテーマは「山紫水明—かけがえのない日本の自然」です。

会計基準の改正に伴い、従来の「当期純損益」は「親会社株主に帰属する当期純損益」へと表現が変わりましたが、本報告書においては「純損益」と表記しています。

本報告書の将来についての計画や戦略、業績見通しに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番2号(ゲートシティ大崎イーストタワー) 電話 03-5435-7111 <http://www.fujielectric.co.jp>